

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

24

2023 JUNE

奈良らしい
景観を目指して



次の植栽に備えて耕起



笑顔で楽しく作業

げに風に吹かれ、よりいっそう輝いて見えました。

美しい町を目指して 桜と共に歩んできた20年

同会の発足のきっかけは約20年前に遡ります。昭和40年代から大阪のベツドタウンとして開発が進み、発展してきた平群町。その住宅開発に伴い、「東山駅」の駅前には立派な広場が完成しました。当時はバラが一面に咲く美しい広場でしたが、時が経つにつれてその景観は失われていきました。その経過を見ていた菊美台地区の有志の住民が「自分たちの住む地区の駅前広場をきれいにしたい」という思いのもとに集まり、「菊美台クラブ」を結成しました。「会の活動を始めた頃、広場に植物は何もありませんでした」と話す南村さん。「そんな中、メンバーの一人が『しだれ桜』を寄贈してくれたんです。この木の存在はとても大きく、活動に対するみんなのやる気を高めてくれました。20年間活動を続ける中で、桜が少しずつ大きくなり、その生長を思い返



東山駅前広場の花壇で和やかに進められる作業の様子



会長
南村 操さん



会計
上元 好子さん



浅井 幸子さん

菊美台クラブ

(生駒郡平群町)

自分たちが住むまちを 自らの手できれいにしたい

平群町菊美台地区の有志が集まり、近鉄「東山駅」駅前広場で植栽活動を行う「菊美台クラブ」。無理せず楽しくをモットーにメンバー一人ひとりが花を通して自分たちのまちの美化に貢献しています。

四季の花々が咲く「駅前広場」 和やかな雰囲気です楽しく活動

奈良県の北西部に位置し、東に矢田丘陵、西に生駒山系と美しい山々に囲まれた生駒郡平群町。近鉄生駒線「東山駅」は、生駒市から平群町に入って最初の駅であり、まさに平群町の玄関口ともいえる場所にあります。駅を降りると広がるのは、この町の魅力を象徴するかのような、花や緑をバランス良く取り入れた駅前広場です。その中心にある約150㎡の円形花壇には、大きなしだれ桜のシンボルツリーが美しい若葉を揺らし、それを取り囲むようにパンジー、ビオラ、オルレアやアヤメなどの様々な花が優しい彩りを添えています。この場所で植栽管理活動を行っているのが、「菊美台クラブ」の皆さんです。

活動は週に1回、午前9時から開始。この日も気持ちのよい晴天の下、メンバーが集まってきました。代表の南村操さんを中心に、各自が除草や耕起を開始します。「私はここをやるね」「それなら私はこっちをやります」というように、綿密な打ち合わせはなくても、メンバー同志の連携はバツチリです。会話ははずみながら、楽しく和やかな雰囲気の中で、それぞれが手際よく作業を進めていきます。

最後に水やりを終えると、花壇に咲く色とりどりの花々はさつぱりと涼しく、感慨深いものがあります。「こぼれ種で育った花や宿根草など、自然に育つたものを大切に続けていきます。また、なるべく手のかからない花種を選ぶなど、メンバーに負担をかけずに続けられる体制をつくってきました」。南村さんのメンバーへの心配りは、このクラブに欠かせない要素の一つとなっています。

愛する町を愛する花で これからもきれいに

現在の会員数は13名で、メンバーの最年少は小学生。植栽活動を見ていた小学生の女の子が「私も花が好きだから手伝いたい」と1年前から活動に参加してくれるようになったとのこと。その子の両親や兄弟が手伝ってくれることもあり、理想的な形で、若い世代とのつながりができつつあります。

「花が好きだという気持ちを大切に、輪を広げていきたい」と話す会員の皆さん。今後の目標は、「無理せず楽しく、植栽活動を続けていくこと」と声を揃えます。その思いに込めるように、花壇は今日も花が咲き誇り、行き交う人々の心を癒やしています。

地域のひととの交流が 活動継続の力に

地域の人や、駅・バス停を利用する方など、たくさんの方々の目に触れる駅前花壇。「実はこの花壇に咲く花は、活動を応援する方々からいただくことが多いんです」と教えてくれたのは、会計の上元好子さんです。「このバラは近く美容室の方が持つてきてくれました。そうやってこの地域の皆さんと一緒に作り上げてきたという感覚です」とつこり。活動中に、「いつもバスの待ち時間にここの花を見るのが楽しみですな





会長
千載輝重さん



副会長
富井忠雄さん



里山グループリーダー
山本隆造さん

奈良・人と自然の会 (奈良市)



チェーンソーを使って木を切断する会員の皆さん

歴史的風土と 恵まれた自然環境を次世代へ

平城宮跡特別保存地区「ならやま里山林」の整備を行う「奈良・人と自然の会」。古都・奈良にふさわしい日本の原風景を再生するために力を尽くしています。

よりよい里山づくりのために
みんなでぎやかに活動

奈良市北部にある「平城山駅」の周辺地域。交通量が多い「ならやま大通り」から脇道に入ると、目に見える風景が一変。豊かな自然環境を生かしながら、整備された里山が広がっています。この「ならやま里山林」の整備・保全活動を行っているのが、総会員数約150名の「奈良・人と自然の会」の皆さんです。この日は毎週木曜の活動日。集まった80名ほどの会員は活動内容によって5つのグループ(里山、エコファーム、景観、パトロール、果樹)に分かれ、間伐材の加工場、水田や果樹園などそれぞれの活動場所へ向かいます。和気あいあいと声を掛け合い、みんな楽しんでます。

「里山グループ」のリーダー、山本隆造さんの案内で、里山の整備活動に同行することに。実際に会員の方がチェーンソーで木を伐採する現場に立ち合うことができました。まずは木を切り倒す方向を決めてから、その方向に「受け口」、反対方向に「追い口」という切り口をつくります。その手際は見事で、「そこに倒すからね」という宣言通りに倒木。「彼の木を伐る技術はプロ並み。私もゼロから教えてもらいました。初めて大木を切り倒した時の快感は忘れられません」と山本さん。会員一人ひとり



が「よりよい里山林づくり」のために日々自己研鑽を重ねて、お互いを尊重し合いながら活動を行う、そんな気持ちのよい人間関係が築かれています。

ゼロからはじめた「整備活動」 地道な努力が実を結んだ 「里山の復活」

同会が結成したのは、2001年。シニア自然大学を卒業した有志約40名が歴史文化探索や自然観察を目的として創立しました。



楽しく会話をしながら「原木の皮むき」



大木も運べる電動台車で里山内を移動

「ならやまプロジェクト」が始まったのは、創立から6年後。当初の「ならやま里山林」は、鬱蒼とした藪が広がっていたそうです。そこを地道に切り拓いていくところから、活動をスタート。やっとなが通れる山になった頃、里山林を30区画に区切り、現存する木の種類や本数を調査しました。結果はそのほとんどがコナラやクヌギの老木を中心とする山林だったそう。「老木のコナラやクヌギは伐採しても萌芽は期待できず、※ナラ枯れにも耐えられません。落葉広葉樹が再生できない森は次第に常緑広葉樹に占有されて一年中日が差し込まない暗い森になっていきます。適切な間伐と植樹を行

いながら整備をしていくことで、山に光が入り、多様な豊かな自然を守ることができると考えています。そう話す山本さんの言葉からは自然への愛情があふれています。「ここも何もしなければ暗い常緑広葉樹の森になっていくんだろうと思います」と会長の千載輝重さんが指さす先は斜面一面の松林。雑木の茂る一面を部分皆伐し、どっさり積もった腐葉土を取り除いたことで、元々自生していた松林が復活しつつあり、その地道な活動は着実に実を結んでいます。これらの長年の努力が評価され、同会は令和3年に緑綬褒章を受章しました。

一人ひとりが楽しみながら！ 『地域の宝』を次世代につなぐ

同会の魅力は「楽しさを第一にした持続的な活動」にあります。冒頭に紹介したように、同会は里山グループを含む5つのグループで構成されていますが、会員はいつでもこのグループに参加する

のも自由。「ゆるやかなルールの中で、みんなが生き生きと活動しています。『こうしなければいけない』という決まりをつくと、楽しい活動も楽しくなくなる。自然を大切にしたいという価値観を共有しながら、一歩ずつ進んで

きた結果が社会貢献につながっていると思います」と千載さん。県内外から毎週多くの会員が足を運ぶのは、ここでも味わえない楽しさや喜びがあるから。そんな同会は、地域との交流にも積極的で、小学生の苗木植樹体験の場も提供。20年から30年で成木になるといわれるコナラやクヌギの豊かな里山を子どもたちの未来に残すことは、この会の大きなモチベーションの一つとなっています。

副会長の富井忠雄さんは、同会の motto「明るく、楽しく、無理をせず」を自ら実践しています。「定年退職した直後より、10年経った今のほうが元気。それはこの会のおかげです。この里山を20年後も『地域の宝』として誰もが親しみを持って訪ねてくれるような場にしていきたいです。笑顔で語る皆さんの活動の様子は、さながら大人の遠足。『奈良・人と自然の会』は、自然に触れることの楽しさをしっかりと次世代につないでいます。



※ナラ枯れ…カシノガキタイムシという昆虫が「ナラ菌」という病原菌を木の中に運び込むことによって引き起こされる樹木の伝染病。



色とりどりの花が商店街を華やかに



愛情を持って各自が管理

のは居酒屋の店長さん、「きれいに咲いてるね」とゼラニウムの状態を確認しているのはケーキ屋のパテシエールさん、皆さん普段はこの名店街で働いて

いる方々です。メンバーの皆さんは長年の付き合いがあり、何か問題があった時の解決策もすぐに話し合える関係性。みんなが協力し合って植栽活動を続けています。
商店街を明るくしたい 手探りで初めた植栽活動
「花を植えることで明るいイメージをつくりたいという思いが活動のきっかけでした」と話すのは、理事長代行の吉野元康さん。
名店街ができたのは昭和43年まで廻りますが、当初は南北をつなぐトンネル通路が薄暗くて通りづらいという課題があったそうです。そこで、名店街の有志が立ち上がり、平成15年から植栽活動が始まりました。
しかし活動開始から数年は苦勞したことも多かったそう。「立地的に北側は日当たりが悪く、みんな花の管理に慣れていない。なかなかきれいに花が咲くまでには至りませんでした」と当時を

振り返ります。そんな声に支えられて、仲間や従業員と花の様子についてよく話すようになりました。試行錯誤しながら地道に活動を続ける中で、徐々に花も応えてくれるようになります。活動は今年で20年目を迎えます。長年の活動が評価され、同組合は平成29年度に、「きれいな奈良県づくり功労賞」を受賞しました。

市との連携によるまちづくり 協働のモデルケース

同組合の活動の特色として欠かせないのは、行政との連携です。平成30年から「共にまちを盛り上げていきたい」と檜原市と協働で活動を行っています。年4回の植え替えは市と組合の有志が集まって実施。春はパンジーやゼラニウム、夏はハイビスカス、冬はハボタンなど、季節に合った花を植栽しています。理事の原田光さんは、「市の方も忙しい中、植え替えのために集まってくださるんです。それを見ていたら『負けら



「近鉄八木駅名店街」南側にあるプランターの水やり

近鉄八木駅名店街協同組合 (檜原市)



理事長代行
上村修三さん



理事長代行
吉野元康さん



理事
荒川照夫さん



理事
原田光さん

まちの景観は入り口から 誇りと熱意が彩る植栽活動

「安心して歩ける駅前になりたい」との思いで始めた「近鉄八木駅名店街協同組合」の植栽活動。「奈良の玄関口にふさわしい景観づくり」を合い言葉に美しい花による精力的な活動を続けています。

季節の花でおもてなし
奈良県のほぼ中央、奈良盆地の南東部にある檜原市。飛鳥時代の都城跡である藤原宮跡をはじめ、大和三山や檜原宮など多くの歴史文化遺産を有し、豊かな自然景観と共に様々な時代の歴史空間を楽しめるスポットが豊富です。近鉄大和八木駅は檜原市の中心に位置する交通の要衝。観光客も多く連日多くの人が行き交っています。
「近鉄八木駅名店街」は、近鉄大和八木駅から市中心部へと誘うように、駅を挟んで南北背中合わせに店が建ち並び、30個のプランターが並び、色鮮やかな花が行き交う人を四季折々にもてなします。その植栽管理や周辺の清掃活動を行っているのが、「近鉄八木駅名店街協同組合」の皆さんです。
ある春の日、「今日は暑いね」と声を掛け合い、組合の皆さんが水のたっぶり入ったじょうろを抱えて、花壇の前に集まりました。毎日の活動である、水やりや花がら摘みを行います。「私も水やりするわ」と駆けつけたのは白衣を着た薬剤師さん。この組合は名店街の27店舗で結成されており、「店舗の前面にあるプランターは各自が責任を持って維持管理する」というスタイルなのだそう。
あちらでパンジーに水をあげている

振り返ります。

「最初、仕事をしながら花の管理をするのは面倒だなと思っていました」と率直に話すのは理事の荒川照夫さん。「でも活動をしていると、通りがかった方々が『いつもありがとう』『お花きれいやね』と

言ってくくださるんです。そんな声に支えられて、仲間や従業員と花の様子についてよく話すようになりました。試行錯誤しながら地道に活動を続ける中で、徐々に花も応えてくれるようになります。活動は今年で20年目を迎えます。長年の活動が評価され、同組合は平成29年度に、「きれいな奈良県づくり功労賞」を受賞しました。

れないな」と皆もやる気が出たりして。この地域をより良くしようとみんなが真剣に取り組んでいる姿を見るたびに、『素敵な地域だな』と誇らしく思います」と充実した表情です。
副理事長の上村修三さんは、「この活動のおかげで、名店街を越えて、まち全体へと視野が広がりました。市役所の方々と接する機会が増え、信頼関係を築くことができたという面でもこの活動は大きかったです。『協働』で活動するモデルケースとして、他の地域にも広がれば良いと思います」とっこり。

「駅前の景観というのは、その町自体のイメージを決めるくらい重要なもの。責任感を持って活動しています」と意気込む皆さんの語り口からは、活動への誇りと熱意が伝わってきます。プランターに揺れる色とりどりの花は、そういった組合の皆さんの思いを活力に、今日も鮮やかに駅前を彩っています。

「なら四季彩の庭」づくりパートナー花壇募集中です！



ご家庭の道路に面したお庭や、
お店や会社の花壇など、
県民の皆さんがキレイに管理されている花壇を
「なら四季彩の庭」づくりパートナー花壇として登録し、
花による彩りあるまちづくりに
参加しませんか？



パートナー花壇に登録しよう！

パートナー花壇に登録いただいた方に以下の特典があります

- 1 「パートナー認定証」を発行します
- 2 「オリジナルフラワーラベル」を配布します
- 3 皆さまの花壇を県の「なら四季彩の庭HP」で紹介します（任意）



認定証

パートナー花壇の要件

- 1 県内で敷地に立ち入ることなく、誰でも見ることができる場所に設置していること
- 2 パートナー花壇の管理者自身が所有・管理する場所、または所有者・管理者の許可を得た場所であること
- 3 合計面積が概ね0.5㎡以上であること



フラワーラベル



公式HPQRコード

【お申し込み方法】

「なら四季彩の庭」公式HPに詳細や、申込用紙を掲載しています。
なお、右記QRコード「e古都なら」からもお申し込みいただけます。
皆さまの花壇のお申し込み、お待ちしております！



e古都ならQRコード